

No.5  
2011.3

# らぶっく

## 目次

- 図書館の思い出 1
- 図書館の蔵書を複写するときは「文献複写申込書」に記入してください 1
- 新年度の図書館活動方針について 2
- 数字でみる図書館利用状況 2
- 新入生に薦めるこの一冊 3
- 図書館利用のススメ 4
- 開館カレンダー 4
- 編集後記 4

## 図書館の思い出

図書館長 山崎 美恵子

小学校時代の私に両親は「うちの身内には天才なんていないから、とにかく本を読みなさい」と口ぐせのように言っていました。「勉強しなさい」ではなく「本と仲良くなりなさい」です。素直に、その通りにして成長した記憶が強烈です。当時は第二次世界大戦が終戦を向かえ、図書類はなく、家の経済状態もままなりませんでした。日本の復興とともに高知市民図書館ができ私は児童文庫棚に本を求めて友達と一緒に出かけることが唯一の楽しみでした。

高知城下の木立ちの中にクリ石で外壁を造った県立図書館のクラシックな建築が大好きで頻回に利用しました。7年間通学した高等学校・大学と県立図書館とが近距離にあったことが私にとっては、すごくうれしいことでした。野原に寝ころがって青空を仰ぎ本を読む風景にロマンチックさを感じた年齢の時もありました。

大学時代から今日まで「学問に近道なし」の諺どおり順序を追って学ぶより外に方法がないことを実感し私の座右の銘ともなり、図書館がより身近な存在になりました。図書を前にして活字を見ていると心が落ち着き、なぜかリッチな気分にもなります。

最近の図書館は蔵書冊数が多いことはさることながら図書館機能の高度化や環境整備に力をいれている大学も多く見うけられ時代とともに図書館の様相が変わっています。ラ・ブリユイエール(1644～1696フランス)は『知性もあらゆるものと同じく消耗する。学問はその栄養である。知性を養い、かつ、それを消耗する』と言っています。いつの時代でも教育研究を支援する場所の一つが図書館であることに変わりはありません。本を読み活字に親しんでいただくことをお勧めします。



## 図書館の蔵書を複写するときは「文献複写申込書」に記入してください

図書館のコピー機の前に右のようなポスターが貼っているのをご存知ですか。

著作権とは知的財産権(知的所有権)の一つで、文化的な創作物(=著作物)と、その創作者(=著作権者)の権利を守ることを目的とし、著作権法という法律で保護されています。通常、著作物を創作した時点で自動的に著作権が発生し、著作者の死後50年まで保護されるのが原則となっています。

図書館での複写は、著作権法第31条に基づき、一定の範囲内で許されています。「大学図書館に



おける文献複写に関する実務要項」(国公私立大学図書館協力委員会)では、利用者が著作権法遵守に関する誓約書を兼ねた「文献複写申込書」に記入し、その複写が著作権法第31条の権利制限の条件を満たしていることを図書館職員が確認することで、その権利制限の範囲内とするという趣旨になっています。

そうすることにより図書館内に設置するコピー機による複写が適法とみなされます。本学図書館でもこの趣旨に則り、「文献複写申込書」の記入をお願いしています。

権利制限の範囲内であるための具体的要件は、利用者側からみれば「文献複写申込書」記載の5項目です。

# 平成23年度の図書館活動方針について

高知学園短期大学図書館では平成23年度、新しい取り組みとして、学生と図書館職員・図書館運営委員による図書館活性化のための活動をはじめます。各クラスに配置された学生図書館委員を通じて学生の皆さんのニーズを把握し、サービス向上に役立てるとともに、委員の皆さんには図書館の情報を広報するなどの支援をお願いし、図書館をより身近な施設として学生生活に大いに活用していただくことを目標にしています。具体的には以下のような活動を企画しています。

選書ツアー(ブックハンティング)・・・直接書店に行って、勉強に必要な本、興味があるけど自分ではなかなか買えない本、読んでみたかった本などを選び、図書館の蔵書に加える企画です。(年1～2回予定)

オープンキャンパス、学園祭・・・図書館内での展示、館内見学の説明を行います。

図書館見学・・・大学図書館や公共図書館など、学外の図書館を見学します。

おすすめ図書紹介(「らぶっく」に掲載)

連絡会・・・図書館側と学生図書館委員双方参加で活動内容などについて意見交換や計画策定、事務的打ち合わせなどを行います。

その他、図書館と協力して図書館活性化のための各種イベントを企画・立案することも考えています。


委員はクラスの役員を決めるときに図書館や本に関心のある学生から募集します。各クラス2名です。委員は活動の連絡係を担い、委員以外でも活動に興味を持った学生は自由に参加できます。

皆さん、一緒に素敵な図書館をつくっていきませんか。

## 数字で見る図書館利用状況

### 在学中に最も本を借りたのは??

平成22年度卒業生の貸出冊数ランキングです!

	1位	生活科学学科2年	野口元子さん	659冊
	2位	専攻科応用生命科学専攻	熊澤莉那さん	277冊
	3位	医療衛生学科医療検査専攻3年	横山安由子さん	234冊
	4位	看護学科3年	宗崎有生さん	233冊
	5位	医療衛生学科医療検査専攻3年	古田裕乃さん	220冊
	6位	看護学科3年	鬼頭 彩さん	173冊
	7位	医療衛生学科医療検査専攻3年	池知絵里さん	126冊
	8位	医療衛生学科医療検査専攻3年	吉井千茜さん	103冊
	9位	看護学科3年	岡 美宝さん	91冊
	10位	看護学科3年	坂本 結さん	86冊

みなさんも図書館を利用して、本をたくさん読んでくださいね





# 高知学園短期大学・新入生に薦めるこの一冊

新入生の皆さんにぜひ読んでもらいたい本を各学科・専攻の先生方が紹介してくれました。  
本との出会いは、あなたに新しい世界を開いてくれます。この機会に挑戦してみては？

## 「愛と認識との出発」

倉田百三著（岩波書店）

熱病にかかったかのように頭先からつま先まで熱くなりながらページをめくる本というのは滅多にあるものではない。わたしが新入生に薦めたいのはその稀な本である。その本は、倉田百三が若い頃に書いた『愛と認識との出発』（1921年）という。これは、若人が直面する「善、真理、友情、恋愛、信仰」といった問題を論じた悪戦苦闘のドキュメントである。若さが満ちあふれた文体である。青春の書は、青春時代に読むべきである。

（生活科学学科 原田 正行 先生）



## 「誰でもできるけれど、ごくわずかな人しか実行していない成功の法則」

ジム・ドノヴァン著・桜田直美訳（ディスカヴァー・トゥエンティワン）

人生では、何かに行き詰まると、人に頼りなくなったり、逆に人に責任を押しつけたりしたくなります。しかし、自分の状況を変えられるのは自分だけです。人や社会のせいにするのは、改善する努力と責任の放棄を意味しています。本書では、タイトル通り、簡単で当たり前のことにもかかわらず、つい忘れてしまいがちなことが書かれています。自立を目指そうとしていく皆さんにとって、今後の人生における指南書となることでしょう。

（幼児保育学科 吉村 斉 先生）



## 「アメリカ版 大学生物学の教科書」

第1巻 細胞生物学 第2巻 分子遺伝学 第3巻 分子生物学

D・サダヴァ著 石崎泰樹・丸山敬監訳・翻訳（講談社ブルーバックス）

この3冊のシリーズは、米国の大学生物学の教科書「LIFE」(eighth edition)から、精髓を抽出して翻訳本として出版されたものである。図の豊富さと精密な出来栄は素晴らしく、生物学を専門としない学生にも解り易い内容である。癌患者が、自身の治療法を理解・選択するためにこの本を読破するのを目にして、バイオテクノロジーの最先端技術を一般社会常識として理解するのに必携の書であると感じた。是非、医療系やそれ以外の皆さんにも読んでいただきたい。

（医療衛生学科 医療検査専攻 富永 麻理 先生）



## 「講義のあとで1」

木原 武一著（丸善株式会社）

「温故知新」という諺は誰でも知っているが、昭和という時代も少し遠くなりつつある。今回紹介する知の追求者達（今西錦司[生態学]、緒方富雄[血清学]、前川文夫[植物学]など計10名）は、少し遠くなった昭和期の日本を代表する学者達が「学問の入り口とその世界」を語った伝説のインタビュー集である。

今、日本の混沌とした時代を生きていく上で、若い皆さん達にとって珠玉の知識を得られるものと考え、お薦めする次第である。

（医療衛生学科 歯科衛生専攻 寺峰 孜 先生）



## 「トリセツ・カラダ カラダ地図を描こう」

海堂 尊 著（宝島社）

人気テレビ番組の「チーム・バチスタの栄光」の原作者でベストセラー作家であり現役医師でもある海堂尊氏が書いたカラダの取り扱い説明書（つまりトリセツ）です。カラダのひみつを解き明かし、この一冊で読者はカラダ地図を手に入れることができ、カラダのすべてがざっくり分かる！という本です。イラストも面白くてわかりやすいので、読みすすむうちにどんどん自分のカラダの中身がどうなっているかがわかり、看護の基礎知識としての人体の構造や機能が確実に理解できると思います。

（看護学科 梶本 市子 先生）



## 図書館利用のススメ(図書館運営委員編)

皆さん、図書館を利用していますか？今回は1年間の締めくくりとして平成22年度図書館運営委員の先生方に図書館について語っていただきました。

大学の教員、職員そして学生、もっと広く地域の人々にとっての大学図書館のあり方を単なる理想主義ではなく、現実に戻した反面、夢のように語り実行してきた1年でした。

図書館報「らぶっく」の発行をはじめ、図書館機能の充実を目的に、図書館運営委員の一人として活動をさせていただけた事を嬉しく思います。これからの図書館が学問の場である大学の中枢としてさらに充実、発展するには、なんとと言ってもみんなが通いたくなるような、そして心豊かな時間を過ごすことの出来る文化施設であって欲しいものです。

そんなことを夢のように語ってみましょう、そして実現させましょう。みんなの力で！

幼児保育学科 竹村 正

先日、地階を探訪すると、全体的に教養分野の書物が多く蔵書されていることが分かりました。そして地階のずっと奥の方に、文学の書庫がひっそりと置かれていました。その中には懐かしい夏目漱石の作品もありました。

私は、高校生の頃、漱石の「草枕」中の一節、「山路(やまみち)に登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹(さお)させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。」に、その意味だけでなく言葉のリズム感も含め、何とも言えぬかっこよさを感じました。それから漱石を読みあさり、主要な作品は高校時代に読破しました。

学生さんには、図書館の蔵書を十二分に利用して専門分野をしっかり勉強することが先ず求められるでしょう。しかし、敢えて文学書や哲学的な書物、特に昔の作家の作品を読まれることを勧めます。これらの作品を読むことで、インターネットもコンピュータもなかった時代の人間の圧倒的な知力、人間の本当の知力に触れることができると思います。

医療衛生学科医療検査専攻 森田尚亨

日々の生活の中で最初の本との出会いは、幼い頃の絵本でした。色彩の美しさや、絵のリアルさが、時にはほんわか気分になったり、時にはドキドキしながらページを開いたものです。

私が通った小学校は、図書室のスペースが広く充実していて壁面に書架、部屋の中央部に一学年が着席出来るテーブルとイスが配置されていて、ゆったりと本を選び読んでいました。低学年では司書の先生が、読み聞かせをして下さったり、中・高学年では、校内国語・漢字辞書引き大会や秋の読書週間の標語募集があったりと、年間を通した様々な活動がありました。今思えば、図書室への心地よい誘導だったように思います。

今後も自身のおかれているフィールドの中で、図書館との心地よい関係を保っていきたいものだと思っています。学生の皆さんも、専門書のみならず、ふとした本との出会いを楽しんでみてはいかがでしょうか。

医療衛生学科歯科衛生専攻 野村加代

学生の皆さんはおいしいパスタ料理を食べさせてくれるお店を探した場合どうしますか？きっとすぐにPCを開いてネットで検索しますよね。ネットはとても便利で居ながらにして海外の情報も手に入れることもできます。でも「どうして赤ちゃんは羊水のなかで息ができるの？」ということを知りたいのってどうでしょう。一般的な知識は得られるかもしれませんが、専門職としての知識を得るにはやはり自分で専門書を開いて解剖生理をしっかりと理解することが必要です。学生さんは授業の課題を調べるのにも書籍に頼らずネットで情報を簡単に収集していることが少なくありません。図書館には各学科の学生さんに必要なたくさんの専門書が用意されています。もしも見たい本がないのであれば購入を希望することもできます。是非ぜひ、一人でも多くの学生さんに図書館を有効に利用して知る喜びと学ぶ楽しさを味わってほしいと思っています。

看護学科 吉村澄佳

“隣の芝生は青い”という言葉があります。

みなさんは、本学の図書館をどのようにとらえていますか。ひょっとしたら、他の大学の図書館は、充実して素晴らしい、私たちの図書館は.....と。

こんなことが何回ありました。知り合いの先生から、県立大学には、卒論のための資料がないので、ぜひ、高知学園短期大学の図書館を利用してほしいとの連絡がありました。来学した県立大学の学生さんは、図書館の蔵書の豊富さと、質の高さにおどろいていました。そして「高知学園短期大学に入学したらよかった。学生さんは幸せですね」と、感謝して帰られました。

私たちは、身近にあり、いつでも利用できるために、すばらしさに気づいていないかもしれません。館長や運営委員会の先生方のもとこれから、もっともっと充実した図書館になっていくことでしょ。空き時間には図書館を探検してみませんか。

生活科学学科 小西文字

## 開館時間のお知らせ

8:30 ~ 18:00

休館

2011年 4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2011年 5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

### 編集後記

らぶっく第5号をお届けします。今回は「新入生に薦めるこの一冊」をはじめ、たくさんの先生方に寄稿していただきました。寄稿してくださった先生方、本当にありがとうございました。